## 福岡市埋蔵文化財調査報告書第885集

# 田島A遺跡2

- 田島△遺跡第7次調査報告 -

2006 福 岡 市 教 育 委 員 会

## 福岡市埋蔵文化財調査報告書第885集

# 田島A遺跡2

- 田島A遺跡第7次調査報告 -



2006 福 岡 市 教 育 委 員 会

古くから大陸との文化交流の門戸として発展を遂げてきた福岡市には、有形・無形の優れた文化財が数多く残されています。これらの文化財は先人が築き上げてきた福岡の歴史と文化を理解し、今後の福岡市の発展にとって欠くことのできない貴重なものです。本市ではこれを念頭に、昭和48年に福岡市文化財保護条例を制定し、多岐にわたる文化財を保護・活用するように努めてまいりました。

しかしながら、近年の都市開発等によって市内の歴史的環境は大きく変貌しています。このようにやむを得ず失われる埋蔵文化財について本市教育委員会では、新たな開発に先立ち発掘調査を行い、記録保存しています。

本報告書は、共同住宅の建設に伴い調査を実施した田島A遺跡第7次調査の成果を報告するものです。田島A遺跡は近年になるまで調査がほとんど行われておらず、長い間その実態が不明のままでした。今回の調査では、古代末から中世にかけての集落跡を検出し、次第にその様相があきらかになりつつあります。

今後、本書が文化財への理解と認識を深める一助になると共に、学術研究の資料として活用していただければ幸いに存じます。

末尾になりましたが、発掘調査から本書の作成にいたるまで多大なご協力を頂きました株式会社日本コミュニティー様をはじめ、調査にご理解を頂きました田島地区の住民の皆様等関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月31日

福岡市教育委員会 教育長 植木とみ子

## 例 言

- 1 本書は、福岡市教育委員会が共同住宅建設に伴い、福岡市城南区田島一丁目443地内で発掘調査 を実施した田島A遺跡第7次調査の報告書である。
- 2 調査記録の作成および整理分担は、次のとおりである。

遺構実測 ......松浦一之介

遺物実測 ......松浦一之介、谷直子(九州大学大学院生)

遺構写真撮影 ......松浦一之介

製 図 ......松浦一之介、木下久美子

写真現像焼付 ......(有)ダイドーカメラ

本文執筆 ......松浦一之介

- 3 本書で使用した方位は磁北であり、座標は国土調査法第 系に拠る。また、標高は東京湾平均海 面高度 (T.P.) に拠る。
- 4 本書で使用した地図は国土地理院発行の福岡、福岡南部、福岡西部、福岡西南部および福岡市発 行の福岡市都市計画図を原図としている。
- 5 本書で使用した遺構の略号は、奈良文化財研究所の用例である。
- 6 本書に関わる遺物および記録等の全資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵される予定である。
- 7 本書の編集は、松浦一之介が行った。

## 本文目次

第1章 はじめに	1
1 . 調査に至る経緯	1
2 . 調査組織	1
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	2
第3章 調査の記録	6
1 . 調査の概要	6
2 . 掘立柱建物跡	7
( 1 )S B - 001	7
( 2 )S B - 002	8
( 3 )S B - 003	8
( 4 )S B - 004	8
( 5 )S B - 005	8
( 6 )S B - 006	9
( 7 )S B - 007	9
( 8 )S B - 008	9
3 . 柵 列	9
( 1 )S A - 009	9
( 2 )S A - 010	9
4 . 出土遺物	9
5 . まとめ	12

## 図版目次

1	田島A遺跡	調査地点位置図(縮尺1/5,000)			3
2	周辺遺跡位	置図(縮尺1/25,000)			4
3	明治33年の	周辺地形と遺跡分布図(縮尺1/25	5,000 )		5
図 1 田島A遺跡調査地点位置図(縮尺1/5,000) 図 2 周辺遺跡位置図(縮尺1/25,000) 図 3 明治33年の周辺地形と遺跡分布図(縮尺1/25,000) 図 4 調査区の位置(縮尺1/500) 図 5 調査区全景(北から) 図 7 出土遺物実測図(縮尺1/3) 図 8 掘立柱建物実測図(縮尺1/100) 図 9 掘立柱建物および柵列実測図(縮尺1/100) 図 1 試掘風景(南東から) 図 1 試掘制 1 試掘 1 以のう 2 以 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1		6			
5	調査区全景	(北から)			7
6	遺構配置図	(縮尺1/200)			8
7	出土遺物実	測図 (縮尺1/3)			9
8	掘立柱建物	実測図(縮尺1/100)			10
9	掘立柱建物	および柵列実測図 (縮尺1/100)			11
10	試掘風景(	南東から)			13
11	試掘前現況	,(南東から)			13
12	試掘調査風	景(北から)			13
13	試掘トレン	チ遺構確認状況(北から)			13
14	試掘トレン	チ遺構確認状況(南から)			13
15	試掘トレン	チ遺構確認状況(南東から)			13
16	調査風景(	西から)			14
17	調査風景(	南から)			14
1	各掘立柱建	物一覧			11
調	査 番 号	0 4 7 2	遺跡略号	ΤΖΑ	
調	查地地番	福岡市城南区田島1丁目443	分布地図番号	072 荒江	
開	発 面 積		調査面積	147.0m²	
調	査 期 間	2005.01.27 ~ 2005.02.17	調査原因	共同住宅建設	
	2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 1 調調開	2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 1	2 周辺遺跡位置図(縮尺1/25,000)	2 周辺遺跡位置図(縮尺1/25,000) 3 明治33年の周辺地形と遺跡分布図(縮尺1/25,000) 4 調査区の位置(縮尺1/500)	2 周辺遺跡位置図(縮尺1/25,000) 3 明治33年の周辺地形と遺跡分布図(縮尺1/25,000) 4 調査区の位置(縮尺1/500) 5 調査区全景(北から) 6 遺構配置図(縮尺1/200) 7 出土遺物実測図(縮尺1/30) 8 掘立柱建物実測図(縮尺1/100) 9 掘立柱建物および柵列実測図(縮尺1/100) 1 試掘副景(南東から) 1 試掘前現況(南東から) 1 試掘自見景(北から) 3 試掘トレンチ遺構確認状況(木から) 4 試掘トレンチ遺構確認状況(南から) 5 調査風景(西から) 6 調査風景(西から) 7 調査風景(南から) 1 各掘立柱建物一覧  調査 番号 0 4 7 2

### 第1章 はじめに

#### 1 調査に至る経緯

平成16年9月14日、日本コミュニティ株式会社代表取締役宮野高明氏より、福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課に対し、福岡市城南区田島1丁目443地内における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無について照会があった。これを受け埋蔵文化財課では、同申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である田島A遺跡群に含まれ、基礎構造が杭打ち工事を伴うことから、同年9月28日試掘調査を実施した。試掘調査の結果、密度はやや希薄ながら現況GL-35cmで遺構面を検出した。

この結果に基づいて、申請者と埋蔵文化財課は現地保存について協議を行ったが、申請地内のうち新築部分の147.0㎡については工事に伴い、遺構の破壊が回避できないため、その箇所を対象とした記録保存のための発掘調査を実施した。

発掘調査は、福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課が実施した。調査期間は、平成17年 1 月27日着手 し、同年 2 月17日に終了した。また整理報告業務は、平成17年度に行った。

#### 2 調査の組織

調査委託 日本コミュニティ株式会社 代表取締役 宮野 高明

調査主体 福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課

教育長 植木 とみ子

文化財部長 山崎 純男

調査担当 埋蔵文化財課

課 長 山口 譲治

事前審查係

係 長 濱石 哲也

担 当 本田 浩二郎(前任) 松浦 一之介(現任)

調査第一係 田中 壽夫(前任) 山崎 龍雄(現任)

担 当 松浦 一之介(現事前審査係)

庶務担当 文化財整備課

課 長 榎本 芳治(現任)

管理係長 市坪 敏郎(前任) 栗須 ひろ子(現任)

管 理 係 鳥越 由紀子(現任)

発掘作業 梅野 眞澄 木田 ひろ子 小栁 静子 柴藤 清志 田中 和祜

田中 肇 辻 節子 辻 哲也 徳永 洋二郎 永井 ゆり子

西川 吾郎 西口 キミ子 古庄 孝子 松本 順子 三谷 朗子

整理作業 木下 久美子 田中 由紀 長浦 芙美子 宮崎 由美子 谷 直子

尚、発掘調査から報告書作成に至るまで、日本コミュニティ株式会社をはじめ、地域住民等関係各位に は多大なご協力とご理解をいただいた。記して謝意を表する次第である。

### 第2章 遺跡の位置と歴史的環境

広義の福岡平野は、福岡市南部に位置する油山(標高597m)から北の鴻巣山を経由して荒戸(荒津)山に至る平尾丘陵によって、西の早良平野と東の福岡平野に分けられる。田島A遺跡が立地する丘陵は、平尾丘陵の西に位置する金山(標高54.8m)から鳥飼低地方面にかけて延びる丘陵上に立地している。丘陵群は、小河川により八手状に開析されており、丘陵の東西の谷部には、樋井川と七隈川が北流する。現在、両河川は鳥飼4丁目付近で合流しているが、このうち樋井川は元来、鳥飼低地東側の大濠へ注いでいたもので、慶長年間以降、福岡城下の整備に伴い、低地の西側(今川)に付け替えられたものである。

調査地点は、これら丘陵中の最も東側の尾根の西側斜面に位置する。調査前の現況は宅地であり、少なくとも大正末年から昭和初年にはすでに宅地として利用されていたことが地図により判る。昭和30年以降には著しく宅地化が進んでおり、旧地形を観察することが困難になっている。調査前の標高は8.4mを測った。

田島A遺跡周辺の丘陵上には田島小松浦遺跡、田島和尚頭遺跡、田島B遺跡、茶山遺跡などの集落遺跡や、4世紀末頃に比定される前方後方墳、京ノ隈古墳が立地する。七隈川より西の小丘陵上には、飯倉遺跡群が立地する。京ノ隈古墳は、調査前に既に前方部が削平されていが、後方部辺19mを測り、粘土槨で全長3.92mの割竹形木棺を主体部とし、鉄剣1点、鋤先1点、鉇が副葬されていた。田島和尚頭遺跡と茶山遺跡では、数次の試掘調査が実施されているが、遺構が確認されておらず、実態が不明である。また、その他の遺跡でも調査例が非常に少ない。

田島A遺跡ではこれまで7次にわたる発掘調査が 実施され、遺跡の様相が次第に明らかになりつつ ある。このうち、別府香椎線の新設に伴い平成10 年に実施された第2次調査では、弥生時代から鎌倉 時代にかけての複合遺跡を検出した。弥生時代前 期の遺構としては、貯蔵穴群のみが検出されてい るが、遺存状況が悪く、元来は住居址群が展開していたと予想され、後世の削平で失われたと考えられている。古墳時代初頭の遺構群は竪穴住居址1棟、石蓋土坑墓1基と数が少なく、遺跡の中心部からやや外れると推定されている。6世紀後半から7世紀初頭の遺構群には、竪穴住居址と溝がある。8世紀後半の遺構群も同様で、竪穴住居址と溝がある。8世紀後半の遺構群も同様で、竪穴住居址と溝がある・12世紀がら13世紀の は建物跡が検出されている。12世紀から13世紀の遺構群は、区画溝を伴う掘立柱建物跡数棟、溝、土坑などが検出されている。掘立柱建物跡には3間×5間の中型のものも見られ、これに小型の附属棟数棟から構成される集落址と推定される。

他の調査地点は、狭小であり遺構や遺物の数が 少ない。このうち、第3次調査区では、南北棟の 掘立柱建物が1棟検出されており、10世紀前後に 比定されている。

古代において、調査地点周辺は和名類聚抄に記される早良郡毘伊郷に比定され、郷長の居宅と推定される遺構が柏原遺跡群で調査されている。

田島A遺跡群周辺の文献資料としては、文安6年(1449)の仁保盛安書状があり、同文書によれば大内氏の氏寺である周防国氷上山興隆寺(現山口市)の寺領として「鳥飼内田島」がみえる。大内氏の筑前進出に伴い、同氏から寄進されたものと考えられており盛見の時代(応永10年~永享3年)には寺領になっていた。一方、田島村内の塩浜四町、平井大明神免田三町は筥崎宮領であったことが知られている。文明11年(1479)には鳥飼や別府を巡って筥崎宮と興隆寺が大内氏の法廷で相論しており、大内氏の勢力が優勢であったと考えられている。

近世の田島村は、田島A遺跡の南側に集落が形成されていたと推定され、元禄5年には家数85軒があったと記される。

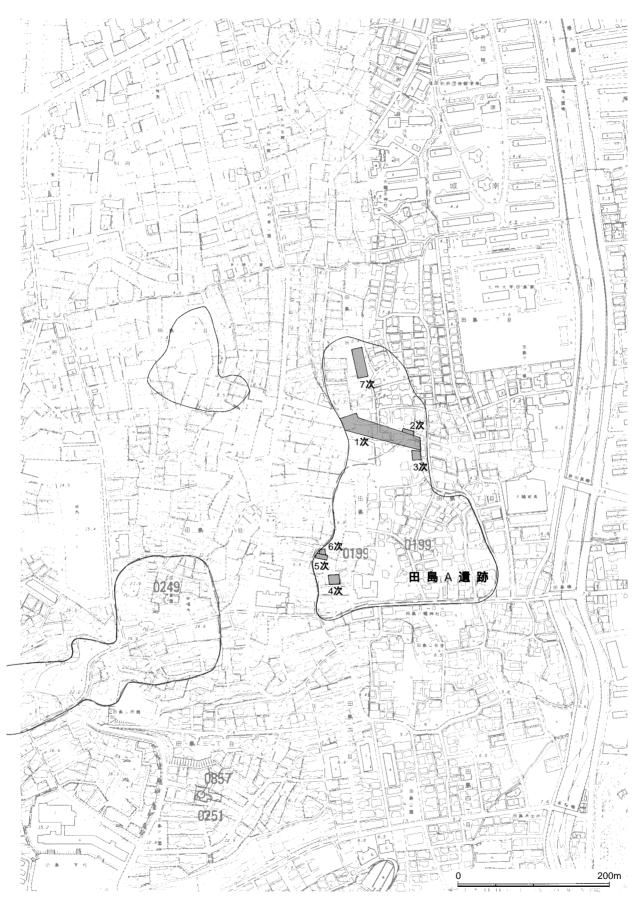


図1 田島A遺跡調査地点位置図(縮尺1/5,000)

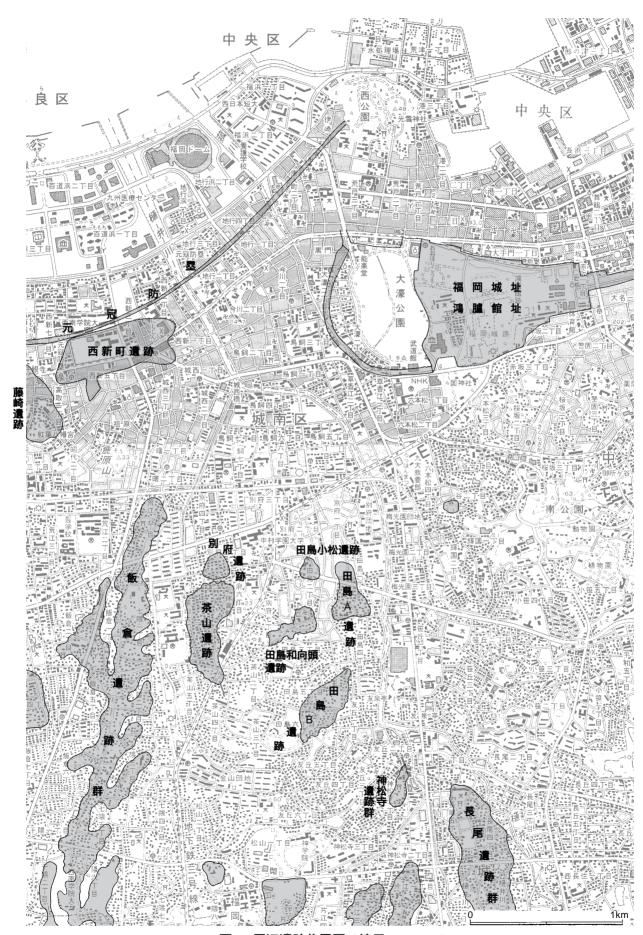


図2 周辺遺跡位置図 (縮尺1/25,000)

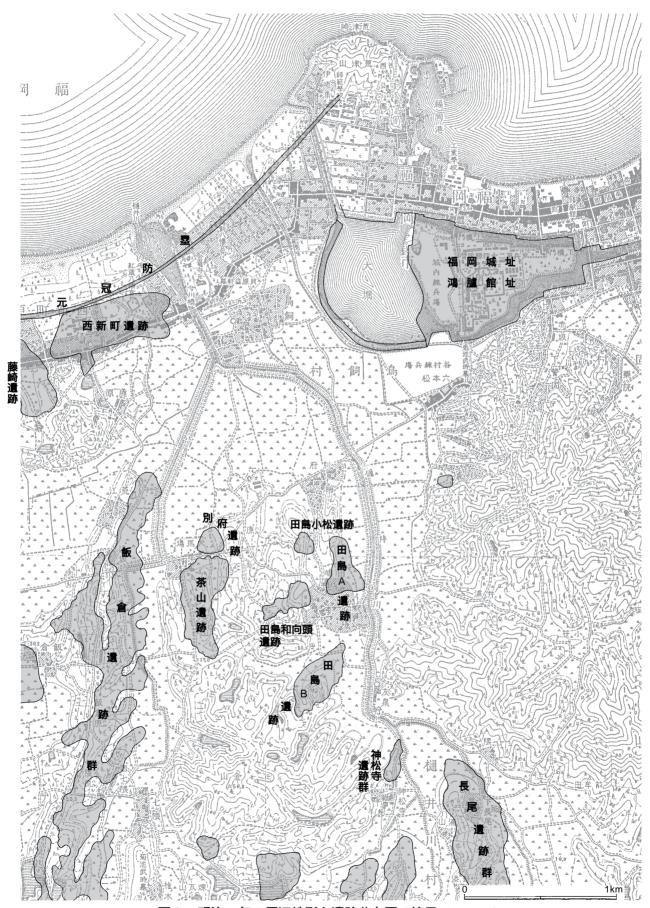


図3 明治33年の周辺地形と遺跡分布図(縮尺1/25,000)

## 第3章 調査の記録

#### 1.調査の概要

第7次調査地点は、福岡市城南区田島 1 丁目443 に位置し、調査前の現況は個人専用住宅解体後の 更地であった。かなり地形の改変が進んだ丘陵の 西側斜面に立地するが、現況では宅地化が進み、 旧来の地形を確認しづらい。調査前の標高は約8.4m を測り、北から南へ向かって僅かに傾斜していた。

試掘調査では、申請地内に5ヶ所のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。結果、そのうち3ヶ所のトレンチにおいて、表土を除去した現況GL-35~50cmで遺構面を確認した。申請地内の北側で

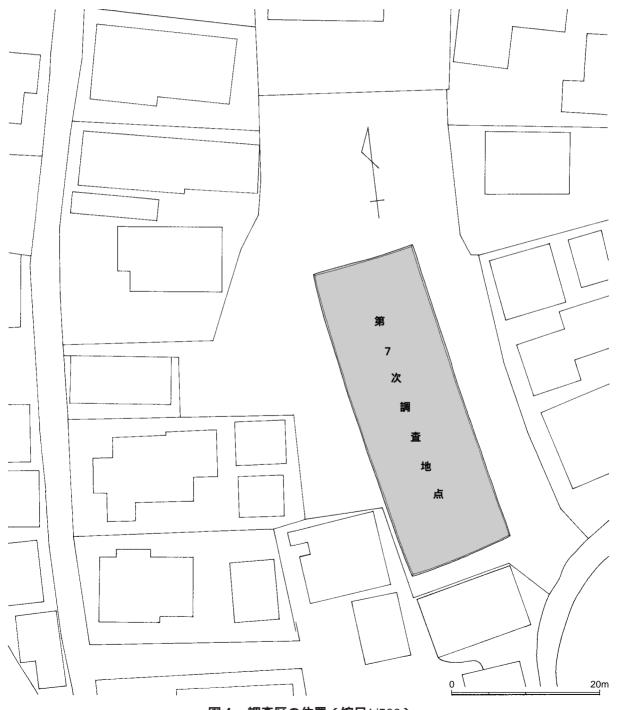


図4 調査区の位置(縮尺1/500)



図5 調査区全景(北から)

は遺構が確認されず、削平により既に遺構が消滅 している可能性がある。

調査区は、共同住宅建設部分のうち、遺構が確認された南側の147.0㎡を対象としている。

調査は、重機による表土の除去後、人力による 遺構検出を行った。遺構面は畑の耕作や各種撹乱 などにより大きく削平されており、遺存状況は良 好でなかった。

検出した遺構は、柱穴、ピット、溝などで、いずれも底部付近が遺存するのみであった。このほか、戦時中に実際使用された防空壕1基を検出した。余談ではあるが、調査期間中に当時の居住者が来訪され、空襲に見舞われて屋敷が焼失した2日間をこの防空壕で過ごしたという貴重な回想を伺うことができた。

出土遺物も僅少で、総量はコンテナケース 1 箱程度である。古代末から中世にかけての土師器、瓦器、白磁、青磁、滑石製石鍋片などがある。特筆すべき遺物としては、越州窯系青磁皿片が 1 点出土している。

#### 2. 掘立柱建物跡

8 棟を復元したが、調査段階で確認されたもの は皆無であり、全て図上で復元した。

#### (1) SB - 001

SB - 001は調査区南側で検出した。遺構の切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸をN - 19° Eにとる。桁行2間、梁行2間で、桁行3.4m、梁行3.3mを測る。各柱間は図中に記入している。北側に廂を設け、桁行1.9m、梁行3.15mを測る。各柱穴の掘方は直径30cmを測り、円形を呈する。不整形なものも見られるが、柱の抜き取りの際に、その両側が掘削されたものと推定される。検出面からの深さは20~40cmと浅く、遺構面がかなり削平されていると考えられる。柱痕が残るものは確認されなかった。建物の一部が調査区外に延びるため、不明な点があるが、床面積は17.5㎡と推定される。

#### (2) SB - 002

SB - 002は調査区南側で検出した。遺構の切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸をN - 13 °- E にと

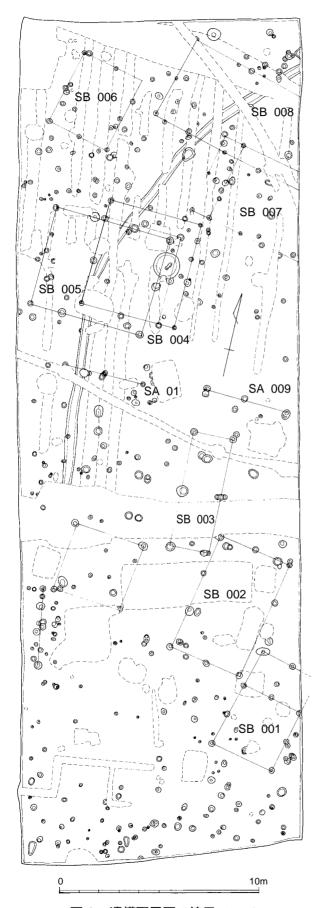


図6 遺構配置図(縮尺1/200)

る。桁行3間、梁行2間で、桁行6.0m、梁行3.7mを 測る。各柱間は図中に記入している。

各柱穴の掘方は、直径25~45cmを測り、円形を 呈する。検出面からの深さは20~65cmと浅く、遺 構面がかなり削平されていると考えられる。8個 の柱穴で柱痕を確認し、柱の太さは10~15cm前後 と推定される。床面積は22.2㎡を測る。

#### (3) SB - 003

SB-003は調査区中央で検出した。遺構の切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸を磁北にとる。桁行2間、梁行1間で、桁行5.9m、梁行2.0mを測る。各柱間は図中に記入している。各柱穴の掘方は、直径30~60cmを測り、円形を呈する。検出面からの深さは20~55cmと浅く、遺構面がかなり削平されていると考えられる。2個の柱穴で柱痕を確認し、柱の太さは18~20cm前後と推定される。床面積は11.8㎡を測る。

#### (4) SB - 004

SB - 004は調査区北側で検出した。SK - 土坑に切られている。南北棟建物で、主軸をN - 3°- Eにとる。身舎は桁行2間、梁行2間で、北および東に廂を設けている。身舎の桁行4.6m、梁行3.9~4.0mを測る。北廂の梁行は0.85m、東廂の梁行は0.85mを測る。身舎および廂を含めた桁行は5.45m、梁行は4.7~4.95mを測る。各柱間は図中に記入している。各柱穴の掘方は、直径20~40cmを測り、円形を呈する。検出面からの深さは20~40cmと浅く、遺構面がかなり削平されていると考えられる。6個の柱穴で柱痕を確認し、柱の太さは身舎で10cm前後のものを使用し、廂のものは10cmに満たないと推定される。床面積は25.9㎡を測る。

#### (5) SB - 005

SB - 005は調査区北側で検出した。遺構の切り合い関係はない。東西棟建物で、主軸をN - 84.5 °- Wにとる。桁行3間、梁行2間で、桁行5.8m、梁行5.0mを測る。各柱間は図中に記入している。各柱穴の掘方は、直径25~45cmを測り、円形を呈する。検出面からの深さは20~60cmと浅く、遺構面がかなり削平されていると考えられる。5個の柱穴で柱痕を確認し、柱の太さは15cm前後と推定される。

床面積は29.0㎡を測る。

#### (6) SB - 006

SB - 005は調査区北側で検出した。遺構の切り合い関係はない。南北棟建物で、主軸をN - 15 °- Eにとる。桁行2間、梁行2間で、桁行3.9m、梁行3.15mを測る。各柱間は図中に記入している。各柱穴の掘方は、直径20~30cmを測り、円形を呈する。検出面からの深さは15~35cmと非常に浅く、遺構面がかなり削平されていると考えられる。柱痕が残るものは確認されなかった。一部調査区外に延びるため、不明な点があるが、床面積は12.5㎡と推定される。

#### (7) SB - 007

SB - 007は調査区北側で検出した。遺構の切り合い関係はない。東西棟建物で、主軸をN - 75°-Wにとる。東側が調査区外に延びる。身舎は桁行2間以上、梁行2間で、桁行4.0m以上、梁行4.05mを測る。西側に廂を設け、廂の梁行は1.0mを測る。身舎および廂を含めると桁行は4.95m以上を測る。各柱間は図中に記入している。各柱穴の掘方は、直径15~30cmを測り、円形を呈する。検出面からの深さは10~60cmと浅く、遺構面がかなり削平されていると考えられる。2個の柱穴で柱痕を確認し、柱の太さは10~18cm前後と推定される。床面積は20㎡以上である。

#### (8) SB - 008

SB - 008は調査区北側で検出した。遺構の切り合い関係はない。東西棟建物で、主軸をN - 72° Wにとる。北側が調査区外に延びる。桁行3間もしくは3間以上、梁行2間で、桁行5.95mもしくはそれ以上、梁行4.25mを測る。各柱間は図中に記入している。各柱穴の掘方は、直径15~25cmを測り、

円形を呈する。検出面からの深さは20~50cmと浅く、遺構面がかなり削平されていると考えられる。 2個の柱穴で柱痕を確認し、柱の太さは15cm前後と推定される。床面積は25.4㎡以上である。

#### 3.柵 列

2列を復元したが、調査段階で確認されたものは皆無であり、全て図上で復元した。

#### (1) SA - 009

SA - 009は調査区中央で検出した。遺構の切り合い関係はない。2間分を検出し、長さ4.3mを測る。主軸をN - 87°- Wにとる。各柱穴掘方は、直径35cmの円形を呈する。検出面からの深さは15~40cmを測る。柱痕が残るものは確認されなかった。(2)SA - 010

SA - 010は調査区中央で検出した。遺構の切り合い関係はない。2間分を検出し、長さ4.05mを測る。主軸をN - 85°- Wにとる。各柱穴掘方は、直径25cmの円形を呈する。検出面からの深さは20~40cmを測る。柱痕が残るものは確認されなかった。

#### 4. 出土遺物

出土遺物は僅少で、図化に耐えるものを掲載した。この他、瓦質土器や滑石製石鍋片なども出土している。図化したものは全てピットからの出土である。

#### 土師器

#### $\mathbf{III}(1~~4)$

1 は口径8.8cm、底径6.4cm、器高0.8cmを測る。 底部はヘラ切りで、焼成は良好、色調は薄い黄み

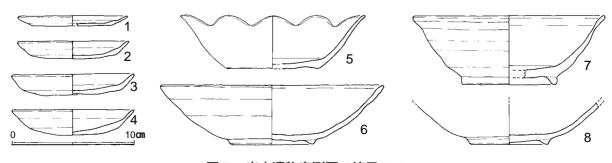


図7 出土遺物実測図(縮尺1/3)

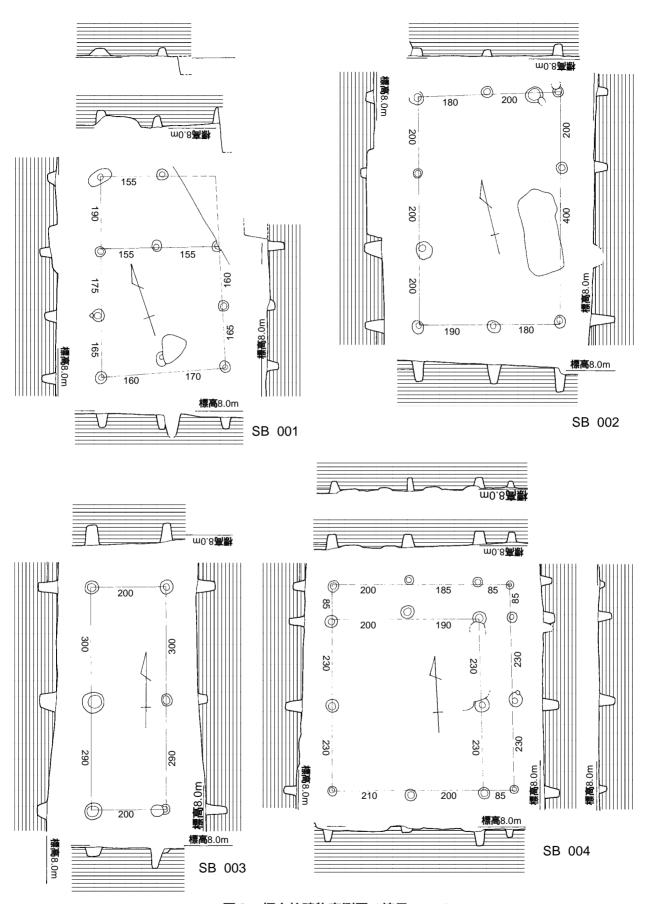


図8 掘立柱建物実測図(縮尺1/100)

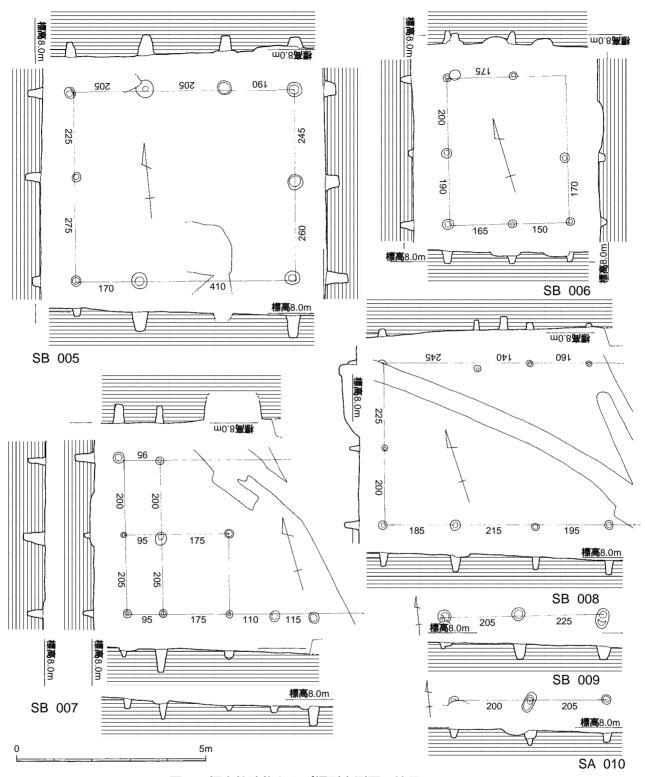


図9 掘立柱建物および柵列実測図(縮尺1/100)

SB	梁行(間)	桁行(間)	梁行(m)	桁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	SB	梁行(間)	桁行(間)	梁行(m)	桁行(m)	面積( ㎡ )	主軸方位
001	2	2	3.3	3.4	17.5	N - 19 °- E	005	2	3	5.0	5.8	29	N - 84.5 °- W
002	2	3	3.7	6.0	22.2	N - 13 °- E	006	2	2	3.15	3.9	12.5	N - 15 °- E
003	1	2	2.0	5.9	11.8	磁北	007	2	2 以上?	4.05	4 以上?	20以上?	N - 75 °- W
004	2	2	4.0	4.6	25.9	N - 3 °- E	800	2	3以上?	4.25	5.95以上	25.4以上?	N - 72 °- W

表 1 各掘立柱建物一覧

を帯びた橙褐色を呈する。 2 は口径9.0cm、器高 1.4cmに復元される。底部はヘラ切りで、板目圧痕がみられる。焼成は良好で、色調は薄い橙褐色を呈する。 3 は口径9.8cm、器高1.7cmに復元される。底部はヘラ切りで、板目圧痕がみられる。焼成は良好で、色調は薄い橙褐色を呈する。 4 は口径 9.8cm、器高2.0cmを測る。底部はヘラ切りで、板目圧痕がみられる。焼成は良好で、色調は明るい灰色を呈する。

#### 越州窯系青磁

#### **輪花皿**(5)

5は口径14.8cm、底径7.2cm、器高4.4cmに復元される越州窯系青磁の皿と考えられる。1/6程度の小片であるが、花弁の数は8枚に復元されると考えられる。胎土は非常に精良で、色調は灰色を呈する。全面にきわめて薄く施釉されているが、底部の一部は釉掛かりが悪く、素地が露出している。焼成は良好で、色調は黄みがかった明灰色を呈する。

#### 瓦器

#### 埦(6~8)

6は口径18.0cm、底径6.6cm、器高4.8cmに復元される。胎土は精良で、焼成はやや軟質である。高台は低く、断面が三角形を呈する。内器面、外器面ともにナデを施す。色調は明るい灰色を呈する。7は口径15.4cm、底径7.8cm、器高5.5cmに復元される。胎土は精良で、焼成は良好である。高台は低く、断面は台形を呈する。内器面、外器面ともにナデを施す。色調は明るい灰色を呈する。8は底径6.3cmに復元される底部片である。胎土は精良で、焼成はやや軟質である。高台は低く、断面が三角形を呈する。内器面、外器面ともにナデを施す。色調は明るい灰色を呈する。

このほか瓦器埦片が数点出土している。

#### 5.まとめ

今回の調査区は田島A遺跡の北限部分の調査である。以下の点について簡単に触れ、まとめに代えたい。

検出された遺構の内容は、掘立柱建物跡 8 棟、柵列 2 条、そのほか溝、土壙、ピットなどである。 集落でありながら、田島A遺跡第 1 次・2 次調査区 と同様に井戸は 1 基も検出されなかった。

検出した掘立柱建物跡は、その規模が  $2 \times 3$  間 のやや中規模なものと、  $2 \times 2$  間もしくは  $2 \times 1$  間の小規模なものに大別される。占有面積からすると、前者が $17.5 \sim 29$  ㎡、後者が $11.8 \sim 12.5$  ㎡程度である。調査面積が狭小なため組み合わせ

関係は明確にできず推測の域を出ないが、20~30㎡の中規模な掘立柱建物を母屋とし、10㎡程度の小規模な附属棟を1ないし数棟伴う農村と推定することができる。このうちSB-004とSB-005は、先後関係が不明であるが同じ位置を占地していることから、建て替えによるものと考えられる。また、各建物の主軸偏差は25°以内に収まっており、集落としてある程度その方向が意識されていたものと推定される。

建物の構造としては、2面に廂を設けるもの(SB-004)などがあるほか、SB-001は北側1間の梁行に柱を立てており、土間と居室部分が分離していたものと推測される。

検出した各建物の帰属する年代は、出土遺物が極めて少なく断言できないが、概ね10世紀後半から11世紀前半代の所産と考えられる。筑前地方の近世農家のうち、直家とよばれる1室住居のように、住居の片側を土間として、また片側をなかえ(居室部分)としたと推測できれば、これら近世住宅の原型は、少なくともそれを大きく遡る10世紀後半にまで求めることができると考えられる。この点に関しては、今回は指摘に留め今後の検討課題としたい。

#### <参考文献>

福岡県の民家緊急調査報告書 1972 福岡県教育委員会



図10 試掘風景(南東から)



図11 試掘前現況(南東から)



図12 試掘調査風景(北から)



図13 試掘トレンチ遺構確認状況(北から)



図14 試掘トレンチ遺構確認状況(南から)



図15 試掘トレンチ遺構確認状況(南東から)



図16 調査風景(西から)



図17 調査風景(南から)

#### 報告書抄録

ふりがな	たじまえーいせきに												
書 名	田島A遺跡 2												
副書名	田島A遺跡	田島A遺跡第7次調査報告書											
巻 次													
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書												
シリーズ番号	第 885 集												
編著者名	松浦 一之介												
編集機関	福岡市教育	福岡市教育委員会											
	福岡市中央	福岡市中央区天神一丁目8番1号 電話 092-711-4667											
発行年月日	平成18年 (	西暦2006年	) 3月31日										
ふりがな	ふりがな コード							調査面積	細木店田				
所収遺跡名	所 在	E 地	市町村	編集機関	北緯	東経	調査期間	m²	調査原因				
田島A遺跡	福岡県福 南区田島		33 ° 130 ° 2005 01 27 34 22 ~ 18 13 2005 02 17				147	共同住宅建設					
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物特記事項									
田島A遺跡	集落	平安時代	掘立柱建	土師器、瓦器、越州窯系青磁皿、滑石製石鍋、 古代末					中世にかけての集				
		~	物址溝	瓦質土器 落址。 母屋 1 棟と附属権									
		鎌倉時代	ピット	棟の組み合わせが数単位確認									
				される。									

## Tajima A Site 7

The Report of The Research of Cultural Properties Fukuoka City Vol 885 31 March, 2006

> Fukuoka City Board of Education Fukuoka City Board of Education 1-8-1 Tenjin Chuo-Ku Fukuoka City, JAPAN

Edited and published by Burial Cultural Properties Section of Fukuoka City Board of Education
Printed by Ishibashi Printing co.ltd
No parts of this publication can be copied by any means without prior permission of this copyright owner.

## 田 島 A 遺 跡 2

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第885集

2006(平成18年)3月31日

発 行 福 岡 市 教 育 委 員 会 福岡市中央区天神 1 丁目 8 1 TEL(092)711 4667

印 刷 石 橋 印 刷 株 式 会 社 福岡市博多区東比恵 3 丁目21番10号 TEL(092)411 0544

The Report of The Research of Burial Cultural Properties Fukuoka City Vol 885

# Tajima A Site 2

31 March, 2006

Fukuoka City Board of Education